

当報告の内容は、それぞれの著者の著作物です。

Copyrighted materials of the authors.

タイトル：「東・東南アジアにおける地域間越境移住の人類学」（平成23年度 第1回研究会）

日時：平成24年5月12日（土曜日）午前10時30分より午後6時

場所：AA研 306号室

報告者・報告タイトル：

発表①：漢卓娜先生

「中国朝鮮族女性の結婚移動に見られる移動と階層分化—送り出し側の中国延辺の事例を通して—」

本報告では、韓国へ多くの結婚移住者を送り出している中国東北部の農村地帯におけるフィールド調査の報告をもとに、①中国朝鮮族をめぐる人口動態、②韓国へ結婚移住した朝鮮族女性の適応過程と韓国社会側の反応、③結婚移住者の送り出し村における社会変化に焦点を当てた報告がされた。具体的には4つのケースに関する詳細なインタビュー調査に基づき、家族のなかに結婚移住者が現れることで多くの親族が韓国への移住労働の契機を得ること、家族はその就労機会を積極的に生かして都市生活者としての地位を手に入れる—社会的上昇を果たす—事例がモデルケースと見做されていること、他方農村に家族がとどまるケースも散見されることが分析された。

発表②：李仁子先生

「韓国と日本間の結婚移住—日本の東北部における調査報告—」

本報告では、日本から韓国への結婚移住について歴史的変遷が解説され、韓国における日本人結婚移住女性たちのコミュニティ組織力と相互扶助活動の活発さが報告された。またそれに続いて韓国から日本への結婚移住女性について、子供への教育投資をすることそのものに自己実現の場を見出している様子が報告された。

その後、1997年を境に日本と韓国のパワー・バランスに変化が生じ、日本—韓国間の結婚移住者の流れやその移住先での社会的地位にも変化が生じた点が分析された。

発表③：床呂郁哉先生

「フィリピンにおける日比国際結婚をめぐる現場からの報告—現地調査中間報告—」

本報告では、まずフィリピンと日本のあいだの結婚移住のながれが歴史的に報告され、つぎに日本国籍者とフィリピン国籍者のあいだの婚姻登録件数および離婚件数が統計的に示された。その後、今日のフィリピンにおいて日本人と結婚する際の法的手続きや社会経済的な諸問題が、現地における綿密なフィールド調査の結果報告として示された。とくに離婚時の子供をめぐる親権トラブルや、現地で生活の手段を失った日本人「困窮邦人」の問題が詳細に報告された。

発表④：石井香世子

「アジアの『結婚移動』研究会 最終成果のとりまとめへ向けて」

本発表では、今後の共同研究会の事務的な事項の確認と、内容的な方向性が確認された。とくに最終成果物の理論的方向性と、11月～12月に予定されている共同研究3年目のとりまとめとしての国際シンポジウムに関して、研究会メンバーの意見を聞きながら確認が行われた。